



# とがみ

山形市立滝山小学校

第11号  
令和4年9月14日

発行：校長 吉田健志  
山形市小立4-13-86

「やさしく かしこく たくましく」

## 「あい」と「想像力」～「なやみゼロ」の学校をつくれるか!～

9月6日の全校集会は、3回目の校長講話でした。今回は楽しい学校をつくるためにはない方がよい「なやみ」を取り上げ、上のタイトルで話しました。

なやみにつながることは、「けんか」や「いじわる」そして「いじめ」です。けんかにもいじわるにも、欠落しているものがあります。それは「あい」つまり「相手意識」です。けんか、いじわるがなくなるためには、「相手を尊重する（大事に思う）」ことが必要です。そもそも、相手は自分とは全く違う人間です。相手と全てわかり合うのは無理ですが、だからこそ、相手は何を考えているのだろう、どう感じているのだろうと「想像力」を働かせることが必要です。それでもわからないなら、きちんと思いを伝え合う、とことん話し合う、一緒に何かをすることで、少しずつ相手のことを理解していくしかありません。

いじめは、さらに悲しくつらいことです。いじめも、「あい」と「想像力」つまり、「相手の痛みを想像する力」がないと起きてしまいます。いじめは、けんかやいじわると少し構造が違います。いじめられる人といじめる人（複数）だけでなく、「いじめを見ている人」がいるのです。それが、よりいじめられている人を苦しめます。いじめている人だけでなく、いじめを見ている人が「相手の痛みを想像する力」を持つことができなければ、いじめはなくならないのです。「あい」と「想像力」を大事にして、けんかやいじわるを乗り越え、みんなでいじめゼロを目指し、「なやみゼロ」の学校をつくっていきましょう。

10年くらい前に出版された『いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ』という本の中から、3人の文章を紹介します。（年齢や肩書きは当時のものです。）



### いじめられている君へ 「広い海へ出てみよう」

東京海洋大学客員准教授 さかなクン

いじめは、さかなの世界と似ています。たとえば、メジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽に入れたら、1匹を仲間はずれにして攻撃し始めたのです。けがをしてかわいそうで、その魚を別の水槽に入れました。すると、残ったメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新たないじめっ子があらわれます。広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じ込めると、なぜかいじめが始まるのです。

中学時代のいじめも、小さな部活動で起きました。友だちが仲間はずれにされました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでしたが、でもその子とよく魚釣りにいきました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話を聞いてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいて安心できたのかもしれない。

大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んだりしていても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。



### いじめている君へ 「君、想像したことある？」 タレント 春名風花

ぼくは、小学6年生です。タレントだけど、ふつうの女の子です。ぼくもツイッターでよく死ねとか消えろとかブスとかウザいとか言われます。ぼくだけでなく、時には家族を傷つけられることもある。涙が出ないくらい苦しくて、死にたくなる日もあります。

けれど、いじめを止めるのは、残念ながらいじめられた子の死ではありません。

せん。いじめは、いじめる子に想像力を持ってもらうことでしか止まらない。

いじめゲームをしている君へ。

あのね。キモい死ねと連日ネットで言われるぼくが生まれた日、パパとママは、この子に出会うために生きてきたんだって思えるくらい幸せだったんだって。それは、ぼくが生意気になった今でも変わらないそうですよ。

想像してください。君があざ笑った子が始めて立った日、はじめて歩いた日、はじめて笑った日、うれしくて泣いたり笑ったりした人たちの姿を。君がキモいウザいと思った人を、世界中の誰よりも、自分の命にかえても、愛している人たちのことを。

そして、その人たちと同じように笑ったり泣いたりして君を育ててきた、君のお父さんやお母さんが、今の君を見てどう思うのかを。今一度、考えてみてください。



### いじめを見ている君へ 「自分の芯 ありますか」

お笑い芸人 猫ひろし

僕は小学生の時から、背が低くて、太っていて、顔も老けていた。学校では「チビ」「デブ」「おやじ」と言われ、悔しくてけんかもした。そのうちにわかってきたことがあります。

いじめに回っている子って実はたいしたことない。自分の意見がなくて、1対1になると何もしゃべれない。金魚のフンみたいに強い子について回るだけ。

自分の中に芯がない人、他人の後ろをついて回るだけの人が、僕には一番かっこ悪い。僕は、何事にも「猫まっしぐら」にのめりこんできた。小学校ではサッカー、中高では卓球。やっているときは本当に本気でプロになるつもりだった。

そして、今はお笑いの仕事に夢中です。マラソンでオリンピックをめざして、毎日走り、苦しい思いをしても、常に話題を発信し続けるのが芸人の仕事だと思ったからがんばれた。他の芸人にはできない僕の武器だと思います。

本当に強い人には自分の意思がある。あなたにも早く夢中になるものが見つかればいいと思います。そうすれば周りの声も気にならない。いじめられている人を見ればかわいそうと思うでしょ。そこで助けられるかどうか。同調して人をいじめたり、ただ見ていたりするのは情けない。今のあなたは自分を持って生きていますか。

### 【6年生の感想より】

自分がいやなことを言われたり、されたりした後、その人に冷たくなったり、関係ない人に八つ当たりしてた自分がいたなって思った。行動する時は、いったん想像しなきゃと思った。

ぼくは、今までいじめが起きているところを見たことがないけど、これから見るかもしれないので、今の話を心に入れて生活していきたいです。

自分が苦手な人とは話をしないで仲良くできなかったり、いやだろなと思ってもこわくて注意ができない時があると思います。

友達と一緒に帰っているときに、かげで他の友達のことを悪くいっているのを聞いて、すごくいやな気持ちになったのを思い出しました。そういう時、私は見ている側だったのだなと思った。

校長先生の話聞いてみて、自分と照らし合わせたら、行動できていなかったと感じました。知らないうちに相手を傷つけないように、相手の気持ちを想像していきたいです。

今までの学校生活で私がされたりいやだなという行動を見たりしてしまったりすることはあった。当たり前のことだけど、その行動を見たら注意したり、自分でもしないようにする。

私は、いじている時があって、そこで相手の気持ちを想像しなかったからだんだんひどくなっていったので、きちんと想像して相手の気持ちを考えていきたいです。

\*\*\*\*\*

### これからよろしくお願ひいたします。

9月1日から、「教育相談員」の田中舞子先生が滝山小に赴任しました。

学校で働くのは初めてですが、人と関わる仕事が好きだそうです。主に、ひまわり学級の友達と関わって行く予定ですが、たくさんの児童と仲良くなってほしいと思います。



自分のこれまでの行動を正直に振り返ることができる児童がたくさんいました。一人一人がしっかり自分を見つめ直すことができれば、きっと「なやみゼロ」の学校実現の日が近づいてくるでしょう。

\*